

令和5年3月31日

スタッフ各位

株式会社 徳  
ノリックス有限会社・有限会社和公  
代表取締役 鷺岡和徳

前略、今月も業務に専心いただきありがとうございます。

すっかり春めいてきました。3月は大相撲春場所やWBCなどの大量弁当受注もあり、久しぶりに忙しい期間となりました。三徳庵でも会葬者が以前より増えつつあり、奈良食堂も団体予約が少しずつ入り、コロナ禍の終焉を感じさせる日々を迎えています。

さて、私が以前読んだ本の中で、「フランスで最も短いとされる詩」というものを見つけました。

—夕ぐれのときは やさしい ひととき—

というものです。音楽的なこの詩には目に見えないたくさんのイメージを重ねることができます。

まず主語は「若い方か年齢を重ねた方」なのか、「独りなのかそうでない」のか、季節は「夏なのか冬なのか」・・・この詩は色々な人、あらゆる季節も当てはまります。それゆえに、この詩には全てを包み込むような優しさを感じます。この詩は目には見えないけれど人生で不可欠な「静寂」「優しさ」「希望」「安息」「慈悲」「愛情」といった普遍的な価値を再認識させてくれます。

私は20代の頃、華道を習っていました。熱心だったので師範・教授の免状もいただいています。

当時師事していた先生によく言われたのが「生け花はどんなに良い花を生けたとしても、素晴らしい作品に仕上げたとしても、生け花は売ること買っても出来ません。飾っている花を通じて、その奥にある目に見えない心を見ることが華道というものです・・・」

心というものは目には見えません。しかしその見えないものを掴むようにしっかり見据えて鍛錬することが生け花の修行だったような気がします。人も同じで表情や動作は目に見えても、人の心はなかなか見えてきません。私たちは「目に見えるもの」ばかりでなく、なかなか見えにくい本当の物の「尊さ」や「価値」をしっかりと見つめることが大切であると思う今日この頃です。

「私たちはお客様のために常に新しいことに挑戦し、食生活に**新たな価値**を創造しつづけます。」

すべては自分のために。

すべてはお客様のために。

すべては会社のために。

すべては社会のために。

来月も一緒に頑張りましょう

草々